

異例な結果となった県議会議長・副議長選挙の結果について

2023 年 9 月 20 日

日本共産党岩手県議団長 斉藤信

9 月 20 日に開催された 9 月県議会臨時会において、県議会議長と副議長の選挙が行われました。日本共産党県議団は達増県政を支える立場から、県議会議長選挙では希望いわての郷右近浩氏に、副議長選挙では同じく名須川普氏に投票しました。結果は、自民党の多数派工作によって議長には第 3 会派（6 人）の工藤大輔氏が、副議長には第 4 会派（5 人）の飯澤匡氏が選出され異例の結果となりました。

議長選挙・副議長選挙は、新聞報道によれば、自民党は「10 日ほど前にいわて新政会の工藤大輔氏に議長ポストを正式に打診し要請した」とのことです。議長ポストを示して多数派工作をした自民党の戦略が功を奏した結果となりました。

重要なことは各会派の政治姿勢が問われたことです。いわて新政会は、自民党、いわて県民クラブ・無所属の会と協力・連携して工藤大輔氏が議長となりました。しかし、いわて新政会には知事選挙で達増拓也現知事を支持してたたかった議員が 2 人（高橋但馬氏と千葉盛氏）います。選挙が終わった直後の県議会で、県知事選挙では対決した自民党と協力・連携したことは支持してくれた有権者に背を向けることになったのではないのでしょうか。知事選挙で「中立」を表明した議員が 4 人（工藤大輔、中平均、村上貢一、田中辰也）いましたが、結果的には知事選挙で大敗した自民党と連携する立場をとりました。「是々非々」の立場を強調していた、いわて新政会といわて県民クラブ・無所属の会も、議長、副議長のポスト優先の立場をとって、知事選挙では大敗した自民党と連携・協力する立場をとった結果となったのではないのでしょうか。

その後開かれた議会運営委員会の委員長、副委員長選挙でも、自民党、いわて新政会、いわて県民クラブ・無所属の会は協力・連携して、委員長は自民党の城内愛彦氏が、副委員長にはいわて新政会の佐々木朋和氏が選出されました。

自民党、いわて新政会、いわて県民クラブ、公明党の協力・連携が、自民党政治の悪政を岩手に持ち込む悪政連合とならないように、県議会でも、県民運動としても選挙で公約した要求実現を掲げ、注視、監視していくことが重要となっています。

日本共産党県議団は、知事選挙での達増拓也現知事の圧勝という県民の審判を踏まえて、公約実現に全力を挙げて取り組みます。また、県議会内外での県民の共同を広げ、市民と野党の共闘の再構築に向けて誠実に取り組んでいきます。